

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.6</b>	
<b>Q1 室内環境</b>						<b>2.6</b>	
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.6</b>	
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音		3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20		
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.8</b>	0.35	<b>2.3</b>	1.00	<b>2.0</b>	
2.1 室温制御		2.7	0.50	2.5	0.50		
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		2.0	0.25	2.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.0</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>2.4</b>	
3.1 屋光利用		1.8	0.30	4.2	0.30		
1 屋光率		住居部分の屋光率: 1.25% ≤ [屋光率]		1.0	0.60	5.0	0.60
2 方位別開口		-	-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策		1.0	0.30	3.0	0.30		
1 屋光制御		1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25		
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.8</b>	
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気		3.0	0.30	3.6	0.38		
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上。		-	-	5.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		ビル全体の禁煙が確認されている。		5.0	1.00	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>2.7</b>	
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>2.8</b>	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		個室10㎡/床以上。		-	-	5.0	1.00
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.5</b>	0.30	<b>2.0</b>	1.00	<b>2.3</b>	
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.50		
1	階高のゆとり	—	1.0	0.60	1.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	—	1.0	0.40	1.0	0.40		
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50		
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40		-		
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-		
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-		
3	電気配線の更新性	配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10		-		
4	通信配線の更新性	配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10		-		
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-		
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			<b>—</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>2.4</b>	
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>	
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50		-		
3.2	敷地内温熱環境の向上	—	2.0	0.50		-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			<b>—</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.0</b>	
<b>LR1 エネルギー</b>			<b>—</b>	<b>0.40</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>2.9</b>	
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPIm=0.75。	<b>5.0</b>	0.20		<b>5.0</b>	
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>	
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>2.2</b>	0.50		-	<b>2.2</b>	
集合住宅以外の評価			2.2	1.00		-		
集合住宅の評価						-		
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20		-	<b>2.5</b>	
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00		-		
4.1	モニタリング	—	3.0	0.50		-		
4.2	運用管理体制	—	2.0	0.50		-		
集合住宅の評価						-		
4.1	モニタリング	—				-		
4.2	運用管理体制	—				-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			<b>—</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.1</b>	
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>	
1.1 節水			節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	<b>4.0</b>	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-		
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70		-		
2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30		-		
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	<b>3.0</b>	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可	4.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-		
1	消火剤	—	-	-		-		
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50		-		
3	冷媒	—	3.0	0.50		-		
<b>LR3 敷地外環境</b>			<b>—</b>	<b>0.30</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>3.2</b>	
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			ライフサイクルCO2排出率が84%。	<b>3.6</b>	0.33		<b>3.6</b>	
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33		-	<b>2.8</b>	
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25		-		
1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25		-		
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25		-		
3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25		-		
4	廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25		-		
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-		
1	騒音	—	3.0	1.00		-		
2	振動	—	-	-		-		
3	悪臭	—	-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-		
1	風害の抑制	—	3.0	0.70		-		
2	砂塵の抑制	—				-		
3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20		-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。	5.0	0.70		-		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30		-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	1.0	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	2.0	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

<b>主な指標</b>															
<b>Q1 室内環境</b>															
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -														
3.1.1 昼光率	昼光率 2.0%														
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 12.1%														
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 13.2㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡														
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡														
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m														
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -														
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年														
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年														
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年														
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年														
3.1.1 階高のゆとり	階高 - m														
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 -														
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2														
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 33% 建物緑化指数 0%														
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 62% 水平投影面積率 18% 地表面対策面積率 25% 舗装面積率 51%														
<b>LR1 エネルギー</b>															
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.75 断熱等性能等級 対象外 相当														
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -														
3 設備システムの高効率化 非住宅部分	BEI/BEI <sub>m</sub> 再エネ有 0.81 無 0.81 オフサイト再エネ有 - -														
集合住宅の評価	一次エネ削減率 再エネ有 無 -														
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -														
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -														
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -														
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -														
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3														
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 83% 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> 2.04														
	地表面対策面積率 40.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%														
	見付面積S <sub>b</sub> 590㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> 106.24 m 基準高さH <sub>b</sub> 6.65 m														
	緑地 430㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡														